

年間第27主日

第1朗読 創世記 2・18-24
第2朗読 ヘブライ 2・9-11
福音朗読 マルコ 10・2-16

2021.10.3 カトリック高円寺教会
ジョン・ジュン神父（クラレチアン宣教会）

結婚と離婚。今、社会の中での一つ問題は婚姻。とても難しい課題と思います。もし結婚について話しをすれば、結構違う立場もあるでしょう。

普通に友達の意見では、結婚したくない人が多いです。日本社会の調査結果でも、結婚することが減ってしまいました。離婚することも増えてしまいました。

もう一つの現象として、2040年に独身者が47%になると思います。

(President 2019年11月15日号記事)

東洋経済新聞(2021年1月22日)によれば、「離婚率」47都道府県ランキングのトップは46%。データが多いですから、でもこれは傾向になるそうです。

多分一番心配なことは、結婚の意味を理解できないこと。もう一つ心配なことは、社会と自分の家族を見て、もし自分の両親に問題が多くあって、喧嘩とか、不倫とか、離婚してしまった場合は、確かに結婚を怖く感じるでしょう。

結婚と夫婦の関係を、神様の立場でどんなふうに考えていますか？

第1朗読の二つのところ、「彼に合う助ける者」と「あばら骨」。

「彼に合う助ける者」と言うことは、女性が男性よりレベルが低いわけではない。女性には崇高な使命があります。この使命は神様の恵みを男性の生命の中に注ぎます。そうしたら、彼が完全になります。だから男性と女性どちらも完璧ではない。女性は男性を自分らしくする。だから奥さんの役割は子供の育てることだけではない。ご主人を理解して、トレーニングすることも必要だと思います。

「あばら骨」：欠けたところ、ギャップ、完璧ではない、傷、愛ということです。愛とは、難しいことだと思います。世界中に永遠の愛は多分存在しないかな。愛が消えるとき、傷が生まれる。愛が消えるとき、ギャップが表れる。愛は人間関係のようなことです。育てることが必要です。経営が必要です。

今日の福音で、モーセの離縁状は女性を自由にして、守ることとありました。「一体である」ということは、愛が円満だということだと思います。

現代人たちは、問題が起きた時、一番のやり方、便利な方法は、古い物を捨てて、新しい物を買って、離婚して断ち切ろう。修理はめんどくさい。

ちょっと待ってください。何か忘れています。

人は成長する必要がある、人生は携帯ではない、リセットできない、いろいろなことを勉強しなければならない。もしまだ自分の傷が治っていなければ、次のステップはどうすればよいですか？

今日の福音のインビテーションは、結婚の中で忠実と責任を分かち合う、イコール、パートナーシップ。お互いに尊重し、共通の価値観を育む。離婚は憎しみを解決するしかない、積極的に関係を回復する、傷を癒す、ストレスを感じる時、原因を探す。

最後に子供たちについて話します。「子供のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。」子供という存在、彼らは単純です。わたしたちも生きるために、純粋な心がなければなりません。